



報道関係者の皆様へ お知らせ

平成 24 年 12 月 18 日午前 10 時
独立行政法人 放射線医学総合研究所

I A E A 協働センターである放医研で 低線量放射線の健康影響に係る国際シンポジウムを開催

東京電力（株）福島第一原子力発電所事故（以下、福島原発事故）を契機に、放射線影響に関する不安が全国的に高まっています。しかしながら、低いレベルの放射線による健康影響についてはいまだわかっていない部分もあり、多くの方の不安を払拭するには至っていないのが実情です。そこで、国内外の経験と知恵を結集して、より正確に低線量放射線のリスクを評価するための研究を推進する必要があります。

国際原子力機関（以下、IAEA）協働センター（IAEA Collaborating Centre、以下、IAEA-CC）である独立行政法人 放射線医学総合研究所（以下、放医研）は、IAEA と共催で、12 月 21 日（9 時 15 分から 18 時まで）に放医研推進棟大会議室で低線量放射線影響研究に関する国際シンポジウムを開催します。

IAEA 協働センターとは、IAEA の事務局次長が指定し、IAEA が計画を遂行することを支援する施設と定義されています。放医研は、2006 年から「低線量放射線の生物影響」の分野で、また 2009 年 12 月には「低線量放射線の生物影響」、「重粒子がん治療」、「分子イメージング」の 3 研究分野で、約 3 年間の期限で IAEA-CC の指定を受けています。

本シンポジウムでは、福島原発事故を踏まえての今後の科学的な取り組みについてグローバルな視点で検討することを目的としています。また当該分野の研究推進に向けた国際機関や国際的ネットワークの取り組みなども紹介します。

シンポジウムの演者は、国内外の著名な研究者と所内の専門家が務めます。またアジア地域からは、IAEA により選抜された被ばく線量推定分野の先導者と若手研究リーダーが参加します。

なお、シンポジウムは、主に放射線影響/防護分野の研究者を対象としており、一般の方にもご参加いただけますが、講演等は全て英語で行われます。

(取材を希望される皆様へのお願い)

本シンポジウム開催は取材可能(テレビ撮影は開会式のみ)です。

○本シンポジウムの開会式(9時15分~9時20分)につきましては、会場後方にて、撮影することができます。今回のシンポジウムの責任者のインタビューなどは可能ですので、ご相談ください。

○それ以外の傍聴につきましては可能です。事前登録された場合、会場後方に席をご用意いたします。事前登録がない場合、写真撮影及びパソコンなどの使用を制限させていただきます。

○各社3名まで、テレビカメラは1台までに制限させていただきます。

○ご取材をご希望の場合は、放医研広報課に12月19日12時までに、FAX(043-206-4062)でご登録ください。

○FAXには、会社名、取材責任者氏名、取材ご希望時間、来所人数、連絡先(FAX番号の他、可能な限り携帯電話、E-mailアドレスもご記入ください)、中継車の有無をご明記願います。ご取材方法の詳細につきましては、放医研から連絡させていただきます。なお、取材の時間等については、調整させて頂く場合がありますので、予めご了承ください。

・放医研正門守衛所で入構手続後、会場入り口にて受付をお願い致します。受付にて名刺を頂戴いたしますので必ずご持参してください。

・報道関係者である事がわかりますように各社の腕章を必ず着用してください。

・取材に際しましては、担当者の指示に従って下さるようお願い致します。

・都合によりスケジュールの変更、取材を中止していただく可能性があります。予め、ご了承ください。

(本件及び取材申し込みに関する問い合わせ先)

独立行政法人 放射線医学総合研究所

広報課

TEL : 043-206-3026

FAX : 043-206-4062

E-mail : info@nirs.go.jp

Program

9:15–9:35	Opening Remarks Dr. Yonekura, President, NIRS
9:35–10:10	Keynote Lecture 1 :Radiation Protection Issues Revealed by the Fukushima Accident Dr. Grosche, BfS
10:10–11:15	Session 1: Low Dose Effects Lectures – Dr. Nakamura, RERF / Dr. Suzuki, NIRS / Dr. Neno, NIRS
11:15–12:05	Session 2: Low Dose Rate Effects Lectures – Dr. Akiba, Kagoshima Univ. / Dr. Ono, IES
12:05–13:20	Lunch
13:20–14:05	Session 3: Effects on Children Lectures – Dr. Shibata, Fukushima Medical Univ. / Dr. Shimada, NIRS
14:05–14:40	Keynote lecture 2 :Effects of Internal Exposure Based on Pathological and Epidemiological Data on Techa River Dr. Napier, PNNL
14:40–15:00	Session 4: Effects of Internal Exposures Lectures – Dr. Kurihara, NIRS
15:00–15:20	Coffee Break
15:20–15:55	Keynote lecture 3 : Low-Dose Radiation Effect Researches – Current Topics and Future Prospects Dr. Atkinson, HMGU
15:55–17:25	Session 5: Scientific Contribution to Member States of the IAEA Short Presentations: The Impacts of Fukushima Accident in Asian Countries (Malaysia, Thailand, Vietnam) Lectures – Dr. Wondergem, Leiden Univ. / Dr. Suto, NIRS / Dr. Yoshida, NIRS
17:25–17:50	Discussion and Symposium Summary Dr. Sakai, NIRS.
17:55–18:00	Closing Remarks Dr. Akashi, Executive Director, NIRS

プログラム

9:15-9:35	開会の挨拶 米倉義晴（放医研 理事長）
9:35-10:10	基調講演 1 :福島原発事故に関連した放射線防護の課題 B. Grosche (BfS、ドイツ)
10:10-11:15	セッション 1: 低線量被ばく -講演者 中村典(放影研)、鈴木雅雄(放医研)、根井充(放医研)
11:15-12:05	セッション 2: 低線量率被ばく -講演者 秋葉澄伯(鹿児島大学)、小野哲也(環境研)
12:05-13:20	昼食
13:20-14:05	セッション 3: 子どもの被ばく -講演者 柴田義貞(福島県立医大)、島田義也(放医研)
14:05-14:40	基調講演 2 :テチャ川の疫学データ等に基づく内部被ばくの影響 B. Napier (PNNL、米国)
14:40-15:00	セッション4: 内部被ばく -講演者 栗原治(放医研)
15:00-15:20	コーヒーブレイク
15:20-15:55	基調講演 3 :低線量放射線影響の最近の動向と将来の展望 M. Atkinson (HMGU, ドイツ)
15:55-17:25	セッション 5: IAEA 加盟国への科学的貢献 -アジアからのコメント(マレーシア、タイ、ベトナム) -講演者 J. Wondergem (Leiden Univ., オランダ)、数藤由美子(放医研)、 吉田聡(放医研)
17:25-17:50	討論とシンポジウムのまとめ 酒井一夫(放医研)
17:55-18:00	閉会の挨拶 明石真言（放医研 理事）